# アリーナのコンセプト

## 【経済的効果より】

・興行、プロスポーツ、コンサートの開催、それに伴う様々な経済的効果、地域経済活性化は大きな軸。1つの柱として、観る、稼げる、選ばれるという部分は、基本的にポテンシャルはあるが、相当固めに、楽観せずに考えることや、新たなエンタメ、コンテンツに対応できる箱であることが必要。(菅委員長)

# 【社会的効果より】

・地元目線、平日も含めて市民の集い、憩い、賑わい、レクリエーションの場として利用されるアリーナが望ましい。減災、防災の拠点、サブ拠点として、市民の安心のようなコンセプトもある。(菅委員長)

## 【まとめ】

・経済面、暮らしと社会の 2 本柱でまとめることができないか。 究極的にはシンボル、ランドマークとなれば良い。 (菅委員長)

# アリーナに求められる役割

#### 【市の魅力、求心力向上】

- ・新たなエンタメを先取りし、若者に響くエンタメを意識して開催すれば、相当効果がある。静岡市は 10 代後半から 20 代の人口流出が著しく、そこに訴求することで、静岡市の消費活動を中長期的に、外部から戻すことができる。(岸委員)
- ・いかに人口を留めておくか。静岡に帰りたいという方向 づけが、アリーナによって持たれるといい。(中村委員)
- ・スケボーやダンスなど、静岡市は公共の場所で自由に練習できるというような、別の魅力をアリーナに持たせることを期待している。(宗野委員)

# 【地域経済の活性化】

- ・静岡でエンタメを提供し、外部に出ていた消費を、市内、県内に取り戻すことで、大きなインパクトが生まれる。東京や名古屋に出ている需要を、少しでも静岡に取り戻すという切り口から、興行内容を考えると良い。(岸委員)
- ・静岡で暮らす、消費もエンタメもある程度完結できる環境 を、アリーナがプラスアルファで生み出すという位置づけ で、経済波及効果も大きくなる。(岸委員)

# 【新たな場の創出】

## <MICE 開催による発信拠点>

- ・アジア唯一の SDGs ハブ都市であり、国際会議の会場として、市の前向きな姿勢を世界に発信し、将来のビジョンを全国に発信する拠点として期待。(安池委員)
- ・国際会議や MICE、SDGs に関する会議の開催により、地域のブランドが上がり、シンボル的になる。(菅委員長)

# <アマチュアスポーツの興行>

- ・新たなアマチュアスポーツの全国大会を企画するとき、施設が地元利用で占められ、だいたい挫折する。順位性を考えずに先着順としてきたことが、新たな企画を静岡に呼ぶ力を削いできた。(久保田委員)
- ・スポーツ需要はこれまで市民利用を優先し、興行的に捉え、 全国大会で誘客する考え方がなかった。(久保田委員)
- ・アマチュアスポーツも、興行型や全国大会は非常に期待できる。 静岡市では十分できていなかったところに、アリーナができれば、新たなニーズとして可能性がある。(菅委員長)

# <教育の場>

・5つの大学が駿河区にあり、色々なスポーツを通じての教育、音楽を通じての教育など、アリーナがいろいろな教育の場となることは夢がある。(中村委員)

# アリーナに求められる機能

## 【アリーナの施設規模】

- ・事務局から説明があった、スポーツ 5,000 人、音楽 8.000 人以上に賛成する。(桂田委員)
- ・8,000人と10,000人ではかなり差がある。10,000人以上ではアリーナツアーのコンサートという形になり、横浜アリーナ、大阪城ホール、日本ガイシなどが基準になる。8,000人では収益的にキャパシティが足りるか、広さの面で全国アリーナツアーができるか、検証しなければいけない。(長井委員)

## 【アリーナの設備等】

- ・必要な設備は何かと言うより、むしろスケルトン状態の 方が良く、ここでしかできないというのは、かえって邪魔 になるケースもある。バスケットで使われるビジョンが、 コンサートの鑑賞に障害となるケースもある。(長井委 員)
- ・5G などの情報通信、AV・映像機器は時代で進化し、技 術がすぐに陳腐化しやすく、一時的にレンタルしたほう が、コストは下がるのでは。(長井委員)
- ・興行をやる側はオールコストの圧縮が大きなテーマ。搬入・搬出に対する設備、やりやすさ(土間コンクリートで11tトラックが中に入れ、荷下ろし後、一方通行で出るなど)はぜひ検討し、考えや指針に入れていただきたい。(長井委員)
- ・幹線道路との近さが逆にネックとなり、トラックの停め場がないところは、工夫していただきたい。(長井委員)

# 【アリーナの形状・レイアウト】

- ・エンドステージ、センターステージ、スポーツ観戦に近い形など、ライブエンターテイメントの在り様が多様化している。 (長井委員)
- ・マルチプルに使う意味で、受け皿としてのインフラにとどめ るスケルトン状態のほうが対処しやすい。(長井委員)
- ・馬蹄形、U字形のアリーナは、音楽興行時に設営コストが安くなることが期待され、選ばれるアリーナになると思う。スケルトンの場合、設営コストをある程度、主催者側が持ち出すことになり、コストが高くなる可能性がある。(桂田委員)
- ・基本計画の前段階などで、いくつかレイアウトを検討する必要があるのでは。(長井委員)
- ・実現可能性調査と同時並行で、基本計画調査を行う自治体 もある。コンセプトワークとスペックの議論が同時にでき、議 論効率が高まるのでは。(桂田委員)

# 【柔軟性·多目的性】

- ・スポーツを見せるだけではなく、様々な趣味、趣向を持った 方々に、それを披露する柔軟性を持ったアリーナが、これか ら求められていくと考える。(内田委員)
- ・公設の場合、コンセプトが強すぎると、そこから外れたものができず、制限される部分が出てきて、選んでもらえなくなる。柔らかな視点を持っていただきたい。(久保田委員)
- ・単に従来型のアリーナを作るだけでは、あまり効果が期待されず、多目的利用により、次世代型のエンタメの空間、文化創造の機運醸成が期待される。(菅委員長)

# 【防災機能】

- ・地域では草薙球場、陸上競技場、このはなアリーナが最大 の避難場所になると想定しており、うまく協力、連携してほし い。(中村委員)
- ・軟弱地盤の場合、地震時は長期にわたり使えない状況が起こり得る。建物の大きさ、オープンスペースの広さから、実際に活動拠点として使えるか、様々なケースを勘案する必要がある。防災がメインの機能とはなりにくく、災害拠点と考えないほうが良い。(岩田委員)
- ・物資の集積拠点、自衛隊・警察・消防の活動拠点を後方支援 する場所や、帰宅困難者の一時的な収容施設として使える のでは。(岩田委員)
- ・一時的に観客をかくまうため、食料や水、ライフラインとして の非常電源等の確保が求められる。(岩田委員)

# 委員の 主な意見

## 今後、対応すべき課題(1)

# 【事業性、事業条件、需要等の精査】

#### <採算性>

- ・静岡市で5,000~8,000人のアリーナは、償却後も黒字になるとは思えない。採算性の「○」は、必ず黒字化するという意味ではないと理解したい。(桂田委員)
- ・ちょっと固めに見通しを立て、その上でアリーナの設計 スペックを工夫し、選ばれる、稼げるといった方向性をし っかりと汲み取っていかなければいけない。(菅委員長)

#### <市の財政負担>

- ・どれくらいの規模、稼働率であれば、採算ベースでどれ くらい事業費が不足し、それは誰がどう負担するかを議 論することが重要。(岩田委員)
- ・一定程度の公金、財政支出があり得る場合、儲かるだけでなく、暮らしの中で市民にどんないいことがあるのか、 というコンセプトの必要性を感じる。(菅委員長)
- ・静岡市が財政的な負担を考えていることを前提に置く と、いろんな議論のブレがない。(長井委員)

# <官民連携の役割分担>

・防災など社会的価値の議論もあり、官民連携によるアリーナモデルを考える必要がある。官民で人、物、金をどう負担するかという役割分担の話になり、民間だけで実現するのは難しい。(桂田委員)

# <民間提案の自由度>

・全国で5,000~10,000人クラスのアリーナは約20箇所、計画ができる。スポーツは本拠地アリーナが選定され、日数と売上げは確保できる一方、音楽はアリーナの数が音楽ライブの興行数以上になる。静岡市のアリーナが選ばれるための機能、民間運用の自由度は、勘案していただきたい。(桂田委員)

## <広域の需要>

- ・事業者からの、静岡は東京と名古屋に挟まれた微妙な位置 にあり、名古屋がダメなら静岡という考えもあるが、簡単に は稼働率を上げられないという意見や、愛知県新体育館に より、愛知からの集客は少し厳しい状況になっていくという 意見をふまえ、広域、全国に集客のターゲットを求め、静岡 できちんと運営できるのか、丁寧に精査していただきたい。 (岩田委員)
- ・もともと市外から来ている人が相当いる。アリーナができれば明らかに増え、宿泊業にも相当な経済効果がある。それが大きくなれば、県外からも来るが、東京、横浜、名古屋に挟まれ、そこで沈むのか、もつかどうか。(久保田委員)

## <エコパアリーナとの競合>

- ・愛知県新体育館は、日本ガイシホールの需要を計算した上で、成り立つ形を考えている。エコパアリーナの需要を計算しなければ難しい。(宗野委員)
- ・エコパアリーナのコンサート需要を奪う形になるのか、潜在 的なコンサートはもっとあり、エコパはエコパで、東静岡で もプラスアルファのコンサートが呼べるのか、しっかり見込 みたい。(菅委員長)
- ・エコパアリーナと併存することは十分に可能だと思う。(長 井委員)

### 【周辺環境への影響の検討】

#### <歩行者動線>

・興行で8,000~10,000人が一斉に出入りする際の、地域 内の動線の検討や、地域との合意形成が課題。(中村委員)

#### <風>

・建物や屋根の形から、風の流れが変わることがあり、隣のマンション等への影響の調査が望まれる。いろいろな問題がこれから具体的になったとき、しっかりチェックし、住民対策をしていただきたい。(中村委員)

#### <騒音>

- ・事業者を決める段階で、急に近隣住民が反対運動をし、行政に対してクレームが入る事案をよく聞く。騒音の影響等、近隣住民への丁寧な説明が必要。(桂田委員)
- ・THE ALFEE の日本平コンサートは、近隣への騒音から1 回で終わった。周辺住民への騒音に気を配り、しっかり説明 し、周辺の方々と一緒に考え、WinWin となるような形で計 画を進めることが必要ではないか。(久保田委員)

#### <振動>

・地域一帯が軟弱地盤である認識のもと、観客の行動による振動の影響も調査していただきたい。(岩田委員)

# 委員の 主な意見

# 今後、対応すべき課題(2)

## 【市民の理解・機運醸成】

- ・アリーナによって交流人口が拡大し、地域経済に良い影響がもたらされることは、行政や経済界だけでなく、市民にも明確に分かってもらうことが大切。他施設や商業地との連動性にもつながる。(内田委員)
- ・市民にしっかり理解、期待してもらうことで、シビックプライドにつながる。市民に理解してもらえるアリーナが重要と掲げることで、市民の理解が近づく。(安池委員)
- ・静岡市に、これだけ大勢の人を誘致する場所が今までな く、1つの拠点として、地域に理解が得られる部分もある と思う。(中村委員)

# 【市内観光との連携】

- ・グランシップで当初想定していた世界会議は、観光面や宿 泊面から東京で行われ、それを止める工夫がされてこなか った。日本平など、静岡には有名なところがある。観光をしっ かりした位置づけにできるといい。(中村委員)
- ・エコパアリーナは実際、終わったら帰るという経済波及効果 であり、静岡、東静岡で何か別にやる、食べる、泊まる、遊ぶ ことがあるかは重要なファクター。(久保田委員)

# 【その他】

- ・埋蔵文化財の調査が必要となる。(岩田委員)
- ・既存のアリーナが抱える問題点や、利用者が不便に思うこと、求めることを聞き取って反映し、未来志向のアリーナにつなげることが大切。(内田委員)

# 委員の 主な意見

# 第3回の議論の方向性

# 【議題など】

・官民連携を前提とした事業スキームのあり方が、次回の 大きなアジェンダ。実現可能性の部分や問題、リスクに 対する対処法、資金、収支の問題、絞り込まないまでも 資金調達、事業スキームのパターンの方向性について、 次回合意を得たい。(管委員長)